

## はじめに

「考える」ということは、いつでも、誰でもしていることです。「明日の天気は晴れかな？」とか「来週の小テストは難しいかな？」といったような疑問を持つことが、考えることにつながります。そして「これを日本語でどうやって言おう？」というのも、「考える」ことなのです。

本書は、初級の段階から日本語で「考える」ということに慣れ親しんでもらうために作られました。初級のうちから日本語で考える練習をしておけば、レベルが上がるにつれて考える力が徐々に身についていくと思うからです。

本書の特長として、トレーニング方式を取っていることが挙げられます。多くの練習問題を盛り込み、似たようなタイプの問題を繰り返し解くことで、「このように例を挙げればいいんだ」「このように理由を述べればいいんだ」ということに学習者自身が気づけるようになっていきます。直接答えを書き込めるスペースも作ってありますので、学習者がストレスなく問題を解き進めることができます。

また、場面や題材も、多くの方が出会うと思われる身近なものを選びました。留学生、ビジネスパーソン、技能実習生、小・中学校の児童・生徒など、日本語を学ぶ人であれば誰でも楽しく練習できるよう工夫しました。

難易度は、初級の後半から中級の前半レベルの学習者をイメージしていますが、第1章などは初級半ばの学習者でも十分使用することができます。

なお、練習問題には解答例がついていますので、1対多数の教室環境だけでなく、独習でも、プライベートレッスンでも使えます。

「考える」ということは、物事の基本でもあります。考えることによって「なるほど!」と思えるようになったり、相手にわかりやすい説明ができるようになったりします。本書が日本語を学ぶ方々への日本語力のさらなる発展に貢献できることを、心から願っております。

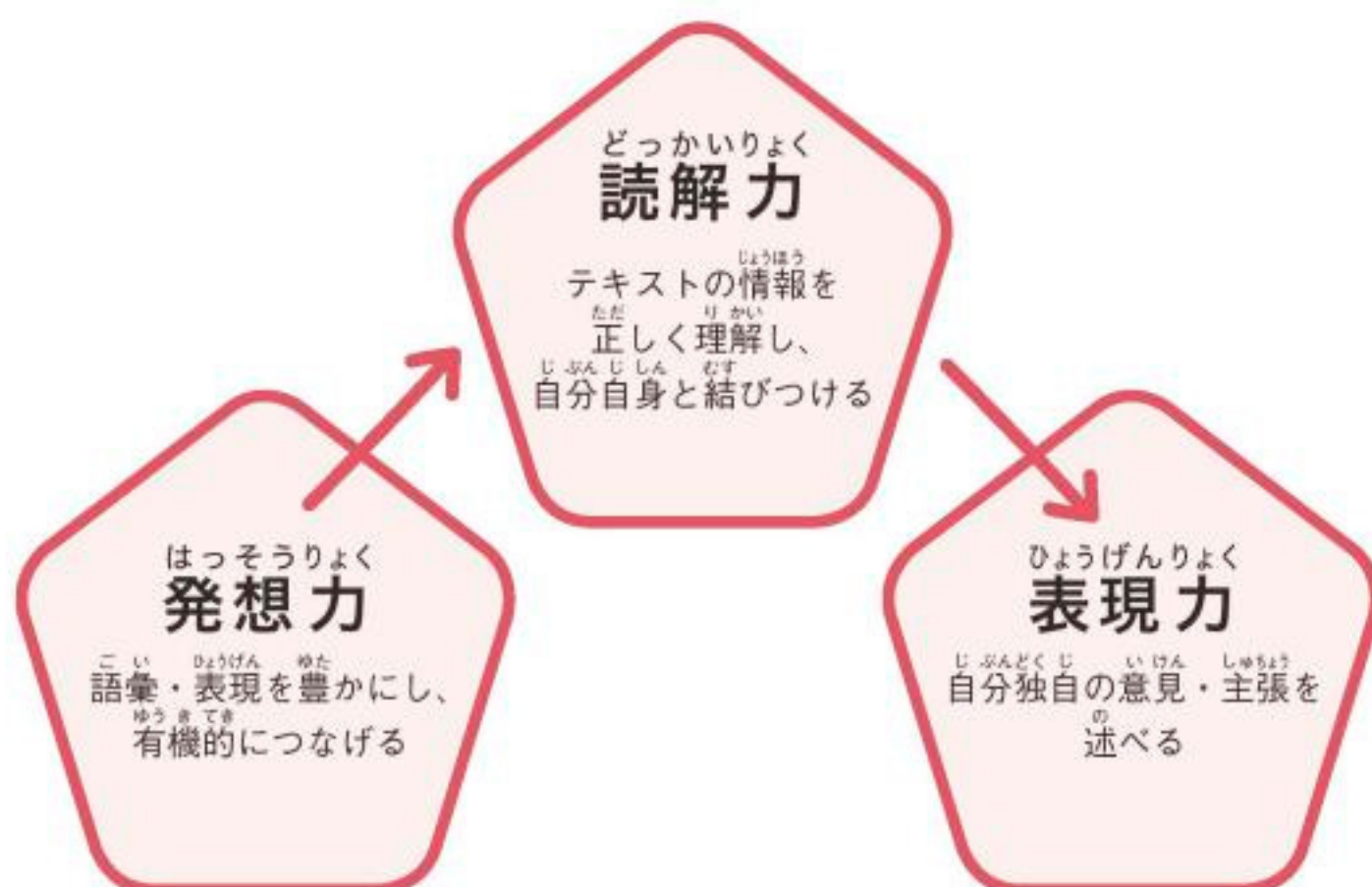
本書は多くの方々のご協力があって出版されました。実際の授業での使用等でご協力いただいた、犬飼のぞみさん、浦澤由美さん、大井景湖さん、上屋康子さん、佐藤みきこさん、鈴木睦子さん、高木淳次さん、山北智恵美さん、横内まりさん、横山晶子さんをはじめ、多くの皆様に厚く御礼申し上げます。そして企画・編集・構成におきましては、株式会社アルクの除村美幸季さん、佐々木あやさん、編集の紺野さやかさんにご協力をいただきました。心から感謝の意を表したいと思います。

## ほんしょ つか かた 本書の使い方

### ほんしょ らくてき 本書の目的

「論理的思考力」とは、物事を整理・分析し、筋道を立てて考える力のことです。この力をもとに自分の意見や主張を相手に伝えることは、社会の中でとても大切なスキルです。

本書では、「発想力」、「読解力」、「表現力」三つの要素の学習を通じて、日本語学習者が学校や会社で必要な、論理的思考力を身につけることを目指します。



#### はっそうりよく 発想力

自分の意見や主張を表現するためには、まず、語彙や表現を豊富にし、さらにそれを有機的につなげることが必要です。発想力とは、テーマに沿った語彙や表現を発想し、それらを整理する力です。

#### どっかいりよく 読解力

意見や主張を相手に伝えるためには、情報を理解するだけでなく、自分で分析したり、推論したり、理由付けをしたりすることが必要です。読解力とは、根拠のある説明のため、得た情報を自らの知識や経験と結びつける力です。

#### ひょうげんりよく 表現力

表現力とは、発想力、読解力で培った力をもとに、自分の意見や主張を相手にわかりやすく、説得力を持って伝わるよう表現する力です。

## 本書の構成と内容

### 第1章 発想力

本章では、テーマに沿って思いつくことをできるだけ挙げてみる「リストアップ」や、テーマとなる単語を中心に自由に関連語句を挙げる「マンダラート」などを行います。

「マンダラート」は中心にある言葉と関係あるものを取り上げることで、自分の頭の中にある言葉を、連結させることを目的とした練習です。

また、発想力の練習の一環として「ならべかえ」も取り入れました。無造作に並んだ文字を並べ替えて自分が知っている言葉に変えることができるかという練習をします。

### 第2章 読解力

読解というと、文章の内容を読み取ることだけに思われがちですが、文章以外のものにもメッセージがあります。本章ではイラストや図表からメッセージを読み取り、必要なことを拾い出し、場合によってはそれを利用して説明する練習を行います。

### 第3章 表現力

本章では、第1章、第2章で得たことをもとに、「比べる」「例を挙げる」「言い換える」「理由を述べる」といった視点も駆使して、自分で文を組み立てる力、または、自分の意見を表現する力、物事を説明する力を身につけるための練習を行います。また、タイトルを考えることや、イラストを見て描写する練習も行い、自分で考えたことを自分の言葉で表現することができるようにします。

参考文献	2
はじめに	3
本書の使い方	4

## 第1章 発想力

1 〈リストアップ〉できるだけ書いてみよう	8
2 〈マンダラート〉つながる言葉を書いてみよう	12
3 〈ならべかえ〉言葉を連想してみよう	16

## 第2章 読解力

1 イラストを見て考えてみよう	20
2 表・グラフの内容を読み取ってみよう	24
3 場所や順番を考えてみよう	36

## 第3章 表現力

1 〈Aは～、Bは…〉くらべてみよう1	48
2 〈A～。一方、B…〉くらべてみよう2	50
3 イラストを見て書いてみよう	52
4 例を出してみよう	56
5 ひと言でまとめてみよう	58
6 〈だから～〉結論をまとめてみよう	60
7 〈なぜなら～からです〉理由を考えて書いてみよう1	62
8 〈どちら、何〉理由を考えて書いてみよう2	64
9 言葉の意味を説明してみよう	68
10 タイトルを考えて書いてみよう	70
11 情報を読み取って書いてみよう	74
12 説明してみよう1	78
13 説明してみよう2	82

第 **1** 章

発想力

# 1

## <リストアップ> できるだけ書いてみよう

例

次の\_\_\_\_\_に、「色の名前」を10個書いてみましょう。

テーマにあわせて、思いつくものを10個書いてみましょう。

好きなもの、嫌いなもの、見たことがあるもの、聞いたことがあるものなど、いろいろあると思います。がんばって書いてみましょう。

あか  
赤

オレンジ

あお  
青

ピンク

きいろ  
黄色

ちゃいろ  
茶色

みどり  
緑

しろ  
白

むらさき

くろ  
黒

練習

次の(1)～(6)の\_\_\_\_\_に、テーマについて思いつくものをそれぞれ10個書いてみましょう。

(1) 国の名前

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

(2) 乗りもの

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

(3) 飲みもの

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

(4) スポーツ

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



(5) あいさつ


(6) 仕事<sup>しごと</sup>


## 2

## ＜マンダラート＞ つながる言葉を書いてみよう

例

次の□につながる言葉を、まわりの□に8個書いてみましょう。

□の言葉にはどんな言葉がつながると思いますか。  
がんばって書いてみましょう。

スーパーで	ほん 本を	ジュースを
デパートで	か 買います	くだものを
コンビニで	ボールペンを	やさいを

練習

つぎの(1)～(6)の□につながる<sup>ことば</sup>言葉を、まわりの□にそれぞれ8個<sup>こ</sup>書いてみましょう。

(1)

	食べます	

(2)

	使います	

(3)

	あげます	

(4)

	おいしい	